

前へ 一歩いっぽ まえへ



はぐるまの会

後援会誕生

六月二十六日に初代会長、金子良夫さんを迎え第一回、後援会役員会が開かれました。はぐるまの活動を資金面から援助するこの組織は、今後大変重要な役割を

負ってくると考えられます。(はぐるまぐらゐの組織を持った施設に、今までなかったのが不思議と)いう、感想があるくらい、後援会はどんな施設にも欠かせない存在になっています。

法人の役割である、地域に必要とされる施設創りのため、強力な援護協力をしてくれる後援会が立ち上がったのですから、関係者一同、協力体制を組み一丸となる時期が来しました。

まず最初の活動は

会員になっていただける方を、より多く獲得していくことです。そのために理事会を

はじめ、仲間会・親の会・職員会各々の協力が必要とされますので、各々の立場で、できることから始めてみましょう。パンフレットができましたら配布いたします。十月中旬を予定しています。

法人事業推進委員会

第一回めが開催されました。法人検討委員会から名称を変えて、始めての会となります。

会の名称のとおり、「事業を推進する」そのためどのような事業の展開をしたらいいか

NO、15

2005年10月6日

社会福祉法人

はぐるまの会

広報委員会

後援会

川崎市多摩区菅馬場

1-18-17

TEL 044-946-1308

を具体的に提案する会となります。

今回確認したことは

- ① 自立支援法の流れをつかむこと。
- ② はぐるまの活動を発展させていくためなどのような施設が必要なかを、具体的に、提案していくこと。

・ 関係者からの要望・意見を調査・分析することを始めます。

※ 現在八箇所めの男性ホームの申請はしています。

- ③ 地域に必要とされている事業はなにか

川崎市の福祉関係者との連携を図りながら、検討していく。

以上三点について確認をしました。

「事業の推進」の基本は言うまでもなく、

仲間の将来の生活が豊かに、活動的に目指しているわけで、仲間の長年培ってきた力が生かせる事業でなければなりません。

事業を展開するためには資金が必要です。

先に記した後援会の力がここで重要な役割をもち、心強い存在となるでしょう。

自立支援法の行方をみすえて

久しぶりに耳にしますが、総選挙の結果、与党が2/3以上の議席を獲得し、公約どおり特別国会において、「自立法案」を一日も早く成立させる意気込みでいます。

しかし、これまで全国で「**応益負担反対**」の運動が展開されてきた当事者の声を、反映させる取り組みはまだ続きます。

激動する情勢をみすえ、これからの福祉施策がどうあるべきか、当事者の声を常に社会にアピールするため、他団体と共同していきたいと思います。十月十三日には、採択の見込み、「緊急要請行動」・安易な採択を行わないよう要請する集会があります。詳しくは、はぐるま本部まで。

支援費制度の時のように、現場の混乱とすぐにだめになるような、薄っぺらな法案にならないために！

今後の動きについては紙面で報告します

仲間自治会より

仲間研修旅行へ行ってきましたのでお知らせします。

今年は登山のかわりに「こころみ学園」に行きました。研修旅行の目的は三つありました。

- ① こころみ学園の仲間たちといっしょに仕事をしよう。

- ② 作業所ごとにまいごをださずに、足利市えきまでいとうしよう。

- ③ どんなかかりがひつようなのが、仲間できめてやりきろう。

この目標で一生けんめいへんきょうして、がんばりました。

またあたらしいとりくみとして、事むきよくリーダーと、あたらしいリーダーが中心となって、仲間たちをひっぱっていきました。わたしは

全体リーダーをしてみてもずかし

ったことは、四十人の仲間の前で話をするのでした。みんなちようして頭がまっしろになってなにも、話せなくなりました。一人ではむずかしかつたけれど、事むきよくリーダーがたすけてくれてできました。自治会でまとめをしたので、「だより」でほうこくします。

実行委員長 橘 浩美記



《醍醐旅館にて》

はぐるまの仲間の最大のテーマは「働く」ということです。障害の変化や、重度化が見られる中、高齢期をより豊かにしていくために、どんなことが必要なかを追求しています。仲間たちは、はぐるまに「働きにきている」とはつきりとした意識をもち日々活動をしているわけですが、そろそろ将来を見通した生活を、考えなければならぬ時期にきました。そのため、八十歳の仲間たちが働く、作業所を見学し、「いくつになっても生き生きと働くためには」という大きなテーマを持って、この旅行に出かけました。

・各作業所のリーダーは、「自分たちで計画し推進する力をつける」という目標で、学習を積んできました。結果、「計画を立てる力」「まとめる力」「発表する力」はかなりの力をつけてきていると評価しあっています。そこで学んだことを、次の世代に伝え仲間集団の力を伸ばしていく、狙いがありました。

今回の研修旅行のテーマは、これからのはぐるまの大きな課題でもあります。すぐに結論が出るものではありませんが、今回の体験を、

生かせるよう仲間とともに、職員会も学習を重ねていきたいと思えます。

《職員会より》

はぐるまに関わる職員は総勢、四十九名になりました。(ホーム三十名・作業所十六名・本部三名) 勤務時間や場所が違うためまったく顔を合わせないという方もでてしまい、作業所とホームの連携にも支障が生じることがあります。ひとりの仲間にも多くの職員が関わっているのです、仲間の状態を共通理解する場が必要となりました。数年前から必要性を感じていましたがやっと実施の運びとなりました。創立以来はじめての合同研修で、参加希望者も四十人になり、みなさんの意気込みを感じます。研修のテーマは、

「食について」

- ・ 個々に適した量は？
- ・ 食事のしかたは？

・メニューのいろいろ

・弁当のおかずの種類 等

仲間の健康状態に合わせた食生活のありかたを、共通テーマとして話し合いをします。

《保護者の皆様へお願い》

職員研修旅行の、実施日が十月十五・

十六日 土曜・日曜となります。

土曜日ホームからの帰宅も、八時にさせていただけますかと思っておりますので、家に着く時間が早くあります。 帰宅途中トラブルが生じた場合の、連絡場所は設定いたしますので、協力をお願いいたします。

フルに宿泊をしている仲間は、「障害者家族等介護者援助事業」のレスパイトサービスを受け、ヘルパーさんと共に過ごしていただくことになりました。

この件でわからないこと等ございましたら、研修担当の第一作業所職員まで連絡をください。

新人紹介

《池田 紋子》

六月二十一日より、第一作業所でお世話になってる、池田紋子です。

私は福祉の仕事は初めての経験で、三ヶ月が経ちますが、まだまだ分からないことばかりです。やっと全作業所の仲間たちを覚えることができ、それと同時にいろいろな勉強をさせてもらっています。これからも仲間たちを通して、いろいろと勉強していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

〔まだうら若き二十三歳のお姉さん職員です。吸収力のある年代です。仲間と共に大きく成長することでしょう。ちなみにヨロン島が実家です〕

《森崎 敏之》

八月一日よりはぐるま工房に入職致しました、森崎敏之です。

前歴は在宅介護サービスの会社で、高齢者身体障害者を対象に、在宅での入浴介助を主に、訪問介護等の仕事を七年半行いました。今までは「やってあげる」が多かったのですが、今は「やらせる」(できるようにしていく)部分が多く、困惑することもあります。

まだまだ勉強不足で、分からないこともたくさんありますが、前歴の経験を生かしながら、仲間たちと関わり、向き合って、一つ一つ問題を解決できるように、頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。〔はぐるまにも、様々な職種の仕事が必要になっていきます。前歴を生かす場面は、たくさんあるでしょう、活躍を期待します〕

お知らせ

金田絵美さんが十月二十一日より産休に入ります。出産予定日は、十二月一日です。元気なお子さんを楽しみにしています。

